

地図帳「地図」との出会い

茨城県 土浦市立都和南小学校 鈴木 剛

1 県の特徴を考える学習の導入から

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）のなかで、最も活用の中心となるのが「地方別の地図」や「くわしい地図」である。この地図にどのタイミングで、どう出会わせるか。

『小学校学習指導要領解説 社会編』では、「県の特徴を考える」学習で活用する資料の事例として、教科用図書「地図」が明示されている。地図帳を活用して県の特徴を読み取るには、地図上の情報の示され方を理解している必要がある。地図上にはたくさんの情報があるとともに、省略されている情報もあるからである。地図上にどんな情報が示され、どんな情報が省略されているのかを確かめたうえで、県の特徴を読み取り、考えるようにしたい。

そこで、「県の特徴を考える」学習の単元「わたしたちの茨城県」の導入部における地図帳の「くわしい地図」や「地方別の地図」の活用を紹介する。

2 地図上のさまざまな情報を知る

最初に、地図帳p.38「①東京都とそのまわり」で、都和南小学校の位置に印をつける。学校は児童全員に共通した最も身近な場所である。すでにこの活動を始める時点で、学校はこの地図には示されていないことがわかる。児童は頭に浮かぶ学校の周囲のようすと、地図上の情報とを照らし合わせながら、学校の位置を特定していった。

「土浦」という地名や霞ヶ浦の西側という条件から、おおよその位置をとらえることは簡単にできる。しかし、線や丸印などの記号で示されている情報を実際のものや言葉に変換するのは、4年生の児童にとってはひじょうに難しい。

そこで、各自が考えた位置情報の根拠を述べさせ、話し合う活動を展開する。みんなで少しずつ気づいた情報を出し合い、これを手がかりに場所を絞っていく。このような「言語活動の充実」を兼ねながら、地図上のさまざまな表現への理解を深めていくのである。

例えば、話し合うなかで次のような気づきが出てきた。

- ①土浦◎→土浦市役所
- ②<125>、<6>と付記された黒の二重線→国道125号線、6号線
- ③紫色の二重線→常磐自動車道(高速道路)
- ④常磐自動車道中で、国道125号線上にもある丸印→土浦北インターチェンジ
- ⑤蛇行した青線→桜川(河川)
- ⑥れんこんの絵記号→生産がさかんなもの
- ⑦田は地図記号で表されている。
- ⑧土浦市役所の北東にある建設機械の絵記号→神立の大きな工場(小さな工場は描かれていない)
- ⑨土浦市役所横の黒線→常磐線
- ⑩駅は二つ以上の鉄道が乗り入れている場合に描かれている(土浦駅は描かれていない)。
- ⑪学校の北側(国道125号線南側)には家が多いが、この地図では「田」と表されている。「市街地」は、さらに家やお店が多い場所が表されているようだ。

最終的には常磐自動車道、国道125号線とそのバイパス、国道6号線、一級河川桜川に囲まれ（ほぼ学区）、この中でも国道125号線に最も隣接している場所として特定することができた。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.38
①東京都とそのまわり（青矢印が本校の位置）

指導者は、児童の発言を生かしながら、地図帳p.7の「地図帳の使い方」にも目を向けさせたい。例えば本時では、「常磐自動車道などの高速道路の中の丸印が、インターチェンジを表していることがはっきり書いてあります。何ページに書いてあるか見つけましょう」などと投げかけ、凡例を参照するようながした。授業の流れのなかで自然に地図帳の使い方を身につけさせることができる。

3 『地図帳』から学習課題をつくる

このようにして地図帳の見方に慣れた後、「地図帳の地図から茨城県のどんなことがわかるだろうか」という課題で、いよいよ県全体の特色を考える活動を展開する。なお、「東京都とそのまわり」の地図だけでは茨城県の北部がわからないため、p.35～36「①関東地方」の地図も併用し、これらの地図からわかることや疑問に思うことを出し合う。

児童は次のようなことに着目した。

- ・南部は田や畑が多く、北部は山が多い。
- ・利根川はおおむね茨城県と千葉県のさかいを流れている。
- ・国道6号線と常磐自動車道、そして常磐線が同じように南北にのびてならんでいる。
- ・海沿いに工場が多いのはなぜだろう。
- ・鹿島神宮には神社の地図記号がある。けれど、筑波山神社には記号はない。鹿島神宮はどんな神社なのだろう。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.35～36
①関東地方

これらの気づきや疑問から単元の学習課題をつくる。そして、各種資料を活用し、県の特色について具体的に調べていくようにするのである。各種資料を調べる過程で、再び地図帳を活用して確かめたり、発表の際に地図にまとめたりといった活動も積極的に取り入れたい。「県の特色を考える」学習は、地図帳に慣れ親しむのに最適である。